

中央新幹線（東京都・名古屋市間）計画段階環境配慮書（長野県分）
に対する環境省意見

中央新幹線については、本年4月に公布された環境影響評価法の一部を改正する法律の趣旨を踏まえ、6月7日に、JR東海により計画段階環境配慮書が作成され、長野県以外のルート幅を約3kmに絞り込んだ概略ルートとともに公表された。本配慮書について、国土交通省から環境の保全の見地からの意見を求められたため、7月15日付で、概略ルート周辺の回避すべき環境要素について留意事項を示す環境省意見を提出したところである。

この度、前回公表されなかった長野県分の概略ルートが8月5日に公表されたため、前回提出した意見に加え、当該地域に対する追加の意見を述べるものである。

1．長野県内のルート案について

長野県内のルート及び中間駅の位置について、JR東海が想定する概略ルート上の天竜川右岸の平地部だけでなく、地元から要望のあるJR飯田駅周辺も検討し、参考として示されている。

天竜川右岸平地部案においては、飯田市西部に位置する長野県営の松川ダム貯水池及び名水百選の「猿庫の泉」がルート帯に含まれている。今後、路線位置を絞り込む際には、トンネルとの土被りが小さくなると予想される松川ダム貯水池及び猿庫の泉について、できる限り回避することを検討する必要がある。また、地質・水文学的シミュレーション等の手法により定量的な予測を行い環境保全措置について十分検討するとともに、環境保全措置の効果を事後調査により確認する必要がある。

なお、参考として示されているJR飯田駅周辺案については、中心市街地を高架で通過することとなるため、騒音・振動・微気圧波・景観・日照障害・電波障害等の影響が懸念される。

2．景観について

前回提出した意見で、南アルプス国立公園とその拡張を検討している候補地について特に配慮するよう求めているが、今後、南アルプス国立公園内及びその拡張候補地内の主要な展望地から、構造物がどのように望見されるか等の景観に関する予測・評価が必要である。また、長野県郷土環境保全地域である妻籠宿における景観についても配慮する必要がある。